



2015. 3. 1

3月ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

今年度最後の月を迎えました。皆様は子どもたちのこの一年の成長をどのように感じておられるでしょうか。毎日接していると子どもの日々の成長は見えにくいものかも知れませんが、一年という単位で見直してみると、幼児期の子どもにとっての一年の成長はとても大きなものです。

特に現代の幼児期の子どもにとっての幼稚園は、この時期の彼らの成長にとって一番大切な様々な体験を積み重ねる場としての大きな意味があります。まず第一の意味は、家庭を離れての生活を、初めて経験する環境としての意味があり、これは子どもたちが受ける最初の学校教育として、どの時代においても変わらないものでしょう。そしてまた、この時期の子どもたちの成長にとって最も必要な環境であるのに、欠けているのは、親や教師が管理する家庭や学校ではなく、子どもたち同士が自由に関わることが許された環境です。子どもたちは自分より年上の子どもたちの遊びに刺激を受け、自分も同じようにしたいという欲求の中で様々なチャレンジをします。上手に出来なくてもまた工夫をして、出来た時の喜びや自信をつけていきます。また自分より年下の子どもとの関係を通して、いたわったり助けてあげたりといった他者に対する思いやりの気持ちもより育つものです。そこでは、大人からの指示や課題が与えられることはなく、自ら工夫して楽しみ、また自らの意志で友だちと競ったり、力を合わせたり、その結果泣いたり笑ったりと、まさしく自分自身で生きているという実感を子ども自身が味わう場面なのです。そして幼児期の子どもにとって一番大切な成長がここに 있습니다。YMCAの幼稚園では、そんな子どもの世界を大切に考えながらこの一年の保育を進めてきました。

子どもたちは、生まれた時から自らの成長する力を使って成長していきます。それは、本能的な欲求から、様々な興味や関心から生み出されるものまで様々あります。しかし、ある親や大人は、「子どもは放っておいたら何もしない」「すべきことを指示し、させなければ何も出来る様にならない」と思い、また「失敗をさせたくない、悲しい思いをさせたくない」「子どものすべてを知っておきたい、手を差し伸べたい」と考え、常に先回りをして補おうとしているかも知れません。しかし、そんな親の不安を子どもは敏感に感じ、子ども自身も不安な気持ちを持つこととなります。また将来に役立つ様々な課題を子どもたちに与えようとし、しかし、そのような状況では、子ども自身が自分自身の成長する力を発揮する余裕さえなくし、逆にその力を反発や反抗といった形で表すこともあります。現代の子どもたちにとっての、いじめや不登校などといった課題や、自分に自信がもてない、対人関係が不安といった状況も、そんな親の気持ちや関わりが大きく影響していることは事実です。

子育てに大切なことは、神様から子どもに与えられている、一人ひとり異なった素晴らしい力を信じることです。そして、「あなたは大丈夫」と子どもに語りかけることです。そして、親だからこそ信じられる、親だからこそ語りかける大切な意味があることを忘れることなく、これからも子どもたちの成長を支えていきたいと願っています。

年主題 「あふれる愛 -これからもともに-」

3月主題 「なかまと心はずませて」

聖句 “羊はその声を知っているので、ついて行く。”

(ヨハネによる福音書 10 章 3-4 節)